

## 「まねる①」

「まねる」ということは、あまり望ましいことではないととらえられることもあります。研究する「基礎力」を身につけていく過程ではとても重要な行為だと考えられます。興味をひかれた先行研究をまねて自分で研究をすることができるのであれば、かなり「基礎力」がついていることの証になると思います。また、これから研究をはじめようとお考えの諸氏には、「まねる」ところからはじめることを提案したいとも思います。研究にはいろいろとまねるべき点があるので、2回に分けてお伝えします。

まず1つめは、調査内容、方法や分析手順をまねるということです。いわば追試をやってみることをおすすめします。

研究には、「初心者向けの研究」などというものはありません。そのため、初心者はどこから始めればよいのかと問われると答えるのは難しいです。学生であれば、教員の指導を受けながら最初の研究を進めることができ、また適宜アドバイスをもらうこともできるでしょう。しかし、職場で指導者もない場合だと、先行研究をまねた追試を何度かやってみることがよいのではないかと思います。

もちろん、単に先行研究の手順通りにやってみるだけでは効果は期待できません。先行研究で引用されている文献に目を通したり、「なぜそのようにした(する)のか」と考えを巡らせたりすることは必須です。それを何度か繰り返し、「データを集め、分析する」ことに慣れてきたら、そこに自分なりのアレンジを加えてみてもよいでしょう。ただし、そのアレンジは妥当で適切なものでなければなりません。妥当で適切なものかどうかを判断するには知識が必要です。先行研究をまねしながら、他方で研究に関する知識を蓄えるのです。この両者によって、まねることの効果が生まれると考えています。

なお、まねをしようとしても、論文の記載だけでは細かいところがわからない場合もあります。「キャリア教育研究」などの学会誌（海外の雑誌も含む）では、論文のはじめ（もしくは最後）に著者の連絡先が明記されていることが多いです。不明な点があれば、勝手な判断で対応するのではなく、著者に連絡して教えていただきましょう。

（南山大学 浦上昌則）